

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-103386

(43)公開日 平成11年(1999)4月13日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup> 識別記号

H 0 4 N 1/387

G 0 6 F 12/00

13/00

17/21

H 0 4 N 1/00

5 4 5

3 5 1

1 0 7

F I

H 0 4 N 1/387

G 0 6 F 12/00

13/00

H 0 4 N 1/00

1/21

5 4 5 A

3 5 1 E

1 0 7 A

審査請求 未請求 請求項の数 8 F D (全 13 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平9-279473

(22)出願日 平成9年(1997)9月26日

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72)発明者 岩本 正志

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

(72)発明者 室 孝順

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

(72)発明者 川原 功治

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

(74)代理人 弁理士 志村 浩

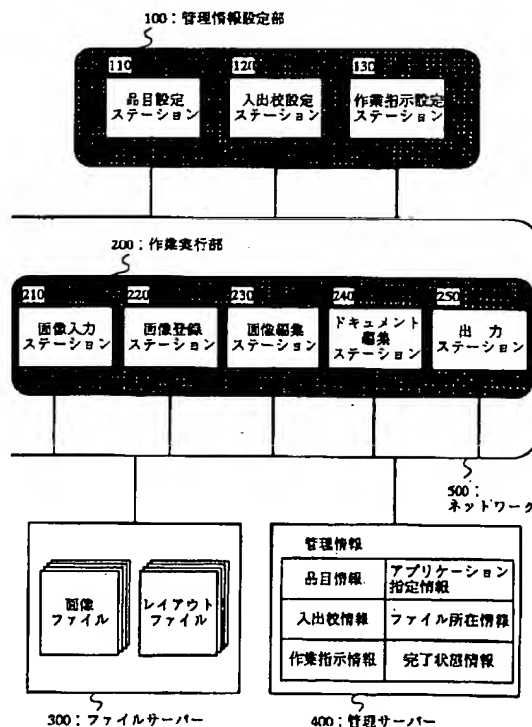
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 コンピュータネットワークを利用した集版システム

(57)【要約】

【課題】 複数のステーションを統括的に運用する。

【解決手段】 各ステーションをネットワークで接続し、画像ファイルおよびレイアウトファイルをファイルサーバー300に格納して利用する。管理情報設定部100のステーションでは、受注した各品目に関する品目情報、各ジョブごとの入出校情報、各ファイルの編集作業に利用するアプリケーションを指定する情報、各ファイルに対する作業内容を示す作業指示情報が設定され、管理サーバー400に格納される。管理サーバー400は、各ファイルの所在を管理するとともに、各ファイルに対する作業の完了状態を示す情報を管理する。作業実行部200内の各ステーションは、管理サーバー400内の管理情報に基づいて、所定のファイルに対して、所定の作業指示に基いた作業を、所定のアプリケーションを用いて実行する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 それぞれ独立したコンピュータからなる複数のステーションをネットワークで接続して集版処理を行うシステムであって、

素材となる画像を入力する画像入力ステーションと、入力した画像に対して所定の画像編集作業を行う画像編集ステーションと、作成すべきドキュメント上に画像を割り付けるドキュメント編集作業を行うドキュメント編集ステーションと、を有する作業実行部と、

特定の編集作業を示す作業指示を、各画像ファイルに対して設定する機能をもった1つもしくは複数の設定ステーションからなる管理情報設定部と、

前記画像入力ステーションによって入力された画像および前記画像編集ステーションによって編集された画像を画像ファイルとして格納するとともに、前記ドキュメント編集ステーションによって作成された割付情報をレイアウトファイルとして格納するファイル格納手段と、

このファイル格納手段内における各ファイルの所在を示す管理情報と、前記設定ステーションにおいて設定された各画像ファイルに対する作業指示を示す管理情報と、この作業指示に基く編集作業の完了状態を示す管理情報とを格納し、これらの管理情報を前記各ステーションに対して提供するとともに、これらの管理情報を前記各ステーションで行われた処理に基いて更新する機能をもったファイル管理手段と、  
を備えることを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

【請求項2】 請求項1に記載の集版システムにおいて、

画像編集ステーションもしくはドキュメント編集ステーションに、編集作業を行うための複数のアプリケーションソフトウェアを搭載しておき、

設定ステーションに、各画像ファイルの編集作業に用いる特定のアプリケーションソフトウェアを指定する機能を設け、

ファイル管理手段内には、各画像ファイルについてのアプリケーションソフトウェアの指定情報を格納するようにし、画像編集ステーションもしくはドキュメント編集ステーションに対して前記指定情報を提供できるようにしたことを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

【請求項3】 請求項1に記載の集版システムにおいて、

画像編集ステーションにより所定の画像ファイルに対する画像編集作業が完了した際に、当該画像ファイルについて設定されていた作業指示を確認し、本来の作業指示とは異なる編集作業が行われていた場合には、エラーを示す情報を提示することを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

【請求項4】 請求項1～3のいずれかに記載の集版シ

ステムにおいて、

設定ステーションにおいて、各画像ファイルに対して特定の作業指示を設定する際に、1つの画像ファイルについてのファイル名を示す欄と当該画像ファイルに対する作業指示を示す欄とを同一行に表示させ、

1つの画像ファイルに対して単独で実行される作業指示を設定する際には、当該1つの画像ファイルに関する行を指定するとともに、当該単独で実行される作業指示を入力する操作を行うことにより設定が行われ、

10 複数の画像ファイルを1つの画像ファイルに合成する作業指示を設定する際には、当該複数の画像ファイルに関する複数の行を指定するとともに、当該合成を行う作業指示を入力する操作を行うことにより設定が行われるようにし、

かつ、合成を行う作業指示が入力された際には、合成対象となる複数の画像ファイルのファイル名と、合成を行う旨の作業指示とを同一行に統合させて表示させるようにしたことを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

20 【請求項5】 請求項4に記載の集版システムにおいて、

合成を行う旨の作業指示が入力された際には、合成対象となる複数の画像ファイルの元のファイル名と、合成後の画像ファイルに付与すべき新たなファイル名とを、同一行に表示させるようにしたことを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

【請求項6】 請求項1～5のいずれかに記載の集版システムにおいて、

1品目の印刷物を複数の部分に分け、各部分ごとの集版作業をそれぞれ独立したジョブとして取り扱えるように、ファイル格納手段およびファイル管理手段内の情報をそれぞれジョブ単位に分類して格納するようにしたことを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

【請求項7】 請求項6に記載の集版システムにおいて、

集版作業が完了した印刷物の特定の部分についての校正指示が与えられたときに、当該特定の部分についてのジョブとしてファイル格納手段およびファイル管理手段に格納されている情報のうちの必要な部分を複製し、この複製した情報を、校正作業を行うための新たなジョブに関する情報として格納するようにしたことを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

【請求項8】 請求項6に記載の集版システムにおいて、

設定ステーションが、各ジョブに関連した頁を入力するための2通りの入力機能を有し、

第1の機能では、開始頁を入力する第1の入力欄と、終了頁を入力する第2の入力欄とを画面上に表示し、第1の入力欄に入力された数値から第2の入力欄に入力され

た数値に至るまでの複数の数値を連続頁と認識する入力を行い、

第2の機能では、所定のデリミタで区切られた複数の数値を入力するための入力欄を画面上に表示し、この入力欄に前記デリミタで区切られて入力された複数の数値を、それぞれ独立した頁と認識する入力を行い、かつ、前記第1の機能と前記第2の機能とを選択的に実行できるようにしたことを特徴とするコンピュータネットワークを利用した集版システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コンピュータを利用した集版システムに関し、特に、それぞれ独立したコンピュータからなる複数のステーションをネットワークで接続して集版処理を行うシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】コンピュータ関連技術の発達により、ここ数年来、DTP (Desk Top Publisng) の手法が急速に普及し、集版処理は、コンピュータを利用して行うのが主流となってきている。一般的な集版処理は、画像をスキャナ装置などでデジタルデータとして入力する画像入力処理、画像に対する切抜加工・色調変更加工・合成加工などを行う画像編集処理、ドキュメント上で画像を割り付けるドキュメント編集処理などから構成される。このため、印刷会社などでは、それぞれ独立したコンピュータからなる複数のステーションをネットワークで接続し、複数のオペレータに種々の作業を分業させるのが一般的である。

【0003】この種の製版システムでは、通常、個々のステーションとして、汎用のワークステーションあるいは汎用のパーソナルコンピュータが利用されており、各ステーションごとに、それぞれ必要なアプリケーションソフトウェアを起動させて、受け持ちの作業を進めることになる。加工対象となる画像データやレイアウトデータなどは、ネットワークを介してやり取りされ、複数のオペレータによる協働作業により、受注した品目についての集版処理が進行する。このように、複数のステーションによって共用される画像データやレイアウトデータは、通常、専用のサーバーに格納され、各ステーションは、作業開始時にサーバーから必要なデータの提供を受け、作業終了時に処理後のデータをサーバーに格納する操作を行うことになる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上述したように、従来の集版システムでは、複数のオペレータの分業によって集版処理が進められるが、この分業作業についての統括的な運用を図ることが困難であるという問題が生じていた。通常、各オペレータは、口頭または作業指示書に基づいて指示を取り交わし、所定のルールに従ってそれぞれが決められた作業を進めてゆくことになるが、実際に

は、ルール遵守の不徹底、指示書の未記入・見落とし・見忘れなどが頻繁に起こり、種々の作業事故が少なからず生じているのが現状である。

【0005】具体的には、ファイルの所在が不明になったり、同一のファイル名が重複して付与されたり、一貫性を欠いたファイル名が付与されたりする事態が生じることになる。また、指示された作業とは異なる作業を行ってしまったり、本来用いるべきアプリケーションソフトウェアとは異なるソフトウェアを用いて作業を行ってしまったり、異なるバージョンのソフトウェアを用いて作業を行ってしまったりする事態も生じやすい。

【0006】そこで本発明は、複数のステーションを用いた統括的な運用を図ることができるコンピュータネットワークを利用した集版システムを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

(1) 本発明の第1の態様は、それぞれ独立したコンピュータからなる複数のステーションをネットワークで接続して集版処理を行うシステムにおいて、素材となる画像を入力する画像入力ステーションと、入力した画像に対して所定の画像編集作業を行う画像編集ステーションと、作成すべきドキュメント上に画像を割り付けるドキュメント編集作業を行うドキュメント編集ステーションと、を有する作業実行部と、特定の編集作業を示す作業指示を、各画像ファイルに対して設定する機能をもった1つもしくは複数の設定ステーションからなる管理情報設定部と、画像入力ステーションによって入力された画像および画像編集ステーションによって編集された画像を画像ファイルとして格納するとともに、ドキュメント編集ステーションによって作成された割付情報をレイアウトファイルとして格納するファイル格納手段と、このファイル格納手段内における各ファイルの所在を示す管理情報と、設定ステーションにおいて設定された各画像ファイルに対する作業指示を示す管理情報と、この作業指示に基く編集作業の完了状態を示す管理情報とを格納し、これらの管理情報を各ステーションに対して提供するとともに、これらの管理情報を各ステーションで行われた処理に基いて更新する機能をもったファイル管理手段と、を設けたものである。

【0008】(2) 本発明の第2の態様は、上述の第1の態様に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムにおいて、画像編集ステーションもしくはドキュメント編集ステーションに、編集作業を行うための複数のアプリケーションソフトウェアを搭載しておき、設定ステーションに、各画像ファイルの編集作業に用いる特定のアプリケーションソフトウェアを指定する機能を設け、ファイル管理手段内には、各画像ファイルについてのアプリケーションソフトウェアの指定情報を格納するようにし、画像編集ステーションもしくはドキュメン

ト編集ステーションに対してこの指定情報を提供できるようにしたものである。

【0009】(3) 本発明の第3の態様は、上述の第1の態様に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムにおいて、画像編集ステーションを用いて所定の画像ファイルに対する画像編集作業が完了した際に、当該画像ファイルについて設定されていた作業指示を確認し、本来の作業指示とは異なる編集作業が行われていた場合には、エラーを示す情報を提示するようにしたものである。

【0010】(4) 本発明の第4の態様は、上述の第1～第3の態様に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムにおいて、設定ステーションにおいて、各画像ファイルに対して特定の作業指示を設定する際に、1つの画像ファイルについてのファイル名を示す欄と当該画像ファイルに対する作業指示を示す欄とを同一行に表示させ、1つの画像ファイルに対して単独で実行される作業指示を設定する際には、当該1つの画像ファイルに関する行を指定するとともに、当該単独で実行される作業指示を入力する操作を行うことにより設定が行われ、複数の画像ファイルを1つの画像ファイルに合成する作業指示を設定する際には、当該複数の画像ファイルに関する複数の行を指定するとともに、当該合成を行う作業指示を入力する操作を行うことにより設定が行われるようにし、かつ、合成を行う作業指示が入力された際には、合成対象となる複数の画像ファイルのファイル名と、合成を行う旨の作業指示とを同一行に統合させて表示させるようにしたものである。

【0011】(5) 本発明の第5の態様は、上述の第4の態様に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムにおいて、合成を行う旨の作業指示が入力された際には、合成対象となる複数の画像ファイルの元のファイル名と、合成後の画像ファイルに付与すべき新たなファイル名とを、同一行に表示させるようにしたものである。

【0012】(6) 本発明の第6の態様は、上述の第1～第5の態様に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムにおいて、1品目の印刷物を複数の部分に分け、各部分ごとの集版作業をそれぞれ独立したジョブとして取り扱えるように、ファイル格納手段およびファイル管理手段内の情報をそれぞれジョブ単位に分類して格納するようにしたものである。

【0013】(7) 本発明の第7の態様は、上述の第6の態様に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムにおいて、集版作業が完了した印刷物の特定の部分についての校正指示が与えられたときに、当該特定の部分についてのジョブとしてファイル格納手段およびファイル管理手段に格納されている情報のうちの必要な部分を複製し、この複製した情報を、校正作業を行うための新たなジョブに関する情報として格納するよう

たものである。

【0014】(8) 本発明の第8の態様は、上述の第6の態様に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムにおいて、設定ステーションが、各ジョブに関連した頁を入力するための2通りの入力機能を有し、第1の機能では、開始頁を入力する第1の入力欄と、終了頁を入力する第2の入力欄とを画面上に表示し、第1の入力欄に入力された数値から第2の入力欄に入力された数値に至るまでの複数の数値を連続頁と認識する入力を行い、第2の機能では、所定のデリミタで区切られた複数の数値を入力するための入力欄を画面上に表示し、この入力欄にデリミタで区切られて入力された複数の数値を、それぞれ独立した頁と認識する入力を行い、かつ、第1の機能と第2の機能とを選択的に実行できるようにしたものである。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、本発明を図示する実施形態に基いて説明する。

#### 【0016】§1. システムの基本構成

図1は、本発明の一実施形態に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムの構成を示すブロック図である。このシステムは、複数台のステーションからなる管理情報設定部100と、複数台のステーションからなる作業実行部200と、ファイルサーバー300と、管理サーバー400と、をネットワーク500を介して接続することによって構成されている。個々のステーションやサーバーは、それぞれ独立したコンピュータから構成されており、具体的には、これらのコンピュータとして、汎用のワークステーションあるいは汎用のパーソナルコンピュータが用いられている。各ステーションには、それぞれ必要なアプリケーションソフトウェアがインストールされており、オペレータは、それぞれ必要なアプリケーションソフトウェアを起動させて所定の作業を行うことができる。加工対象となる画像データやレイアウトデータなどは、ネットワーク500を介してステーション間で共有できるため、複数のオペレータによる協働作業により集版処理を進めることができる。

【0017】管理情報設定部100は、管理サーバー400に格納される管理情報を設定する処理を実行する。この実施形態では、管理情報設定部100は、品目設定ステーション110、入出校設定ステーション120、作業指示設定ステーション130の3つのステーションから構成されており、それぞれの設定作業を分業化することができる。もちろん、1台の設定ステーションでこれらを兼務させてもよいし、より多数のステーションによる分業を行ってもかまわない。

【0018】後に詳述するように、品目設定ステーション110では、受注した品目についての全般的な設定が行われる。一般的には、1冊の雑誌、1冊のカタログなど、1つの刊行物を1品目として受注することが多い。

管理サーバー400内に格納されている管理情報のうち、品目情報およびアプリケーション指定情報は、この品目設定ステーション110によって設定された情報である。

【0019】また、入出校設定ステーション120では、受注した品目に関する入稿および出校を管理するための入出校情報を設定する処理が行われる。通常、1品目についての原稿は、数頁単位で入稿が行われ、この数頁分の原稿についての集版作業を1つのジョブとして取り扱うことにより、作業はジョブ単位で行われる。入出校設定ステーション120では、入稿が行われるたびに、これを1つのジョブとして登録する作業が行われる。また、校正刷りなどを顧客に提示するための出校作業も、各ジョブ単位で行われ、入出校設定ステーション120において管理される。こうして、入出校設定ステーション120で設定された入出校情報は、管理サーバー400に格納される。

【0020】一方、作業指示設定ステーション130は、特定の編集作業を示す作業指示を、各画像ファイルに対して設定する機能を有する。ここで述べる実施形態では、入稿した各画像ファイルに対して、一貫したファイル名を付与する処理を行うとともに、個々の画像ファイルに対して行うべき切抜加工・色調変更加工・合成加工などの作業指示を設定する。ここで設定された作業指示も、管理サーバー400に格納される。

【0021】このように、管理情報設定部100を構成する各ステーションが、集版作業に必要な種々の設定を行うために利用されるのに対し、作業実行部200を構成する各ステーションは、実際に集版作業を行うために利用される。この実施形態では、作業実行部200は、画像入力ステーション210、画像登録ステーション220、画像編集ステーション230、ドキュメント編集ステーション240、出力ステーション250から構成されており、それぞれの処理作業を分業化することができる。もちろん、1台のステーションでこれらを兼務させてもよいし、より多数のステーションによる分業を行ってもかまわない。

【0022】画像入力ステーション210は、具体的には、汎用コンピュータにスキャナ装置を接続した構成からなり、入稿してきたフィルムや写真などをスキャナ装置によってデジタル画像データとして取り込む作業を行うために利用される。取り込んだ画像データは、ネットワーク500を介して、直接ファイルサーバー300へと転送することも可能であるが、本実施形態では、作業の便宜上、取り込んだ画像データは、MOディスクなどのリムーバブル記憶媒体に格納するようにしている。このリムーバブル記憶媒体は、画像登録ステーション220へと渡され、ここでファイルサーバー300への登録が行われる。別言すれば、画像入力ステーション210のオペレータは、スキャナ装置を用いた画像の取り込み

作業のみを行い、画像登録ステーション220のオペレータは、この画像をファイルサーバー300へと格納する作業のみを行うことになる。

【0023】画像編集ステーション230は、ファイルサーバー300内に格納されている画像データに対して、切抜加工・色調変更加工・合成加工などのいわゆるフォトタッチ作業を行うためのコンピュータであり、フォトタッチ用のアプリケーションソフトウェアが複数種類インストールされている。オペレータは、管理サーバー400内の管理情報に基いて、所定の画像ファイルに対して、所定のアプリケーションソフトウェアを用い、所定の加工処理を施す作業を行う。

【0024】ドキュメント編集ステーション240は、作成すべきドキュメント上に画像を割り付けるドキュメント編集作業を行うためのコンピュータであり、いわゆるDTP用のアプリケーションソフトウェアが複数種類インストールされている。オペレータは、画像編集ステーション230において加工が行われた個々の画像を素材として、ドキュメントの頁上に割り付けを行い、必要に応じて、テキストデータの入力を行う。このようにして作成された頁単位の割り付けを示すデータファイルを、ここではレイアウトファイルと呼ぶことにする。このレイアウトファイルは、ドキュメント編集ステーション240で動作中のDTP用アプリケーションソフトウェアによって作成されるファイルであり、画像ファイルとともにファイルサーバー300に格納されることになる。

【0025】出力ステーション250は、編集後の画像や集版が終了した頁を、ビットマップイメージデータとして出力する機能を有する。出力ステーション250を構成するコンピュータに、カラープリンタを接続しておけば、各頁ごとのイメージをプリンタ用紙上にカンパ出力を行うことができるし、出力スキャナを接続しておけば、フィルム原版上にイメージを出力し、このフィルム原版を用いて印刷を行うことができる。

【0026】このように、作業実行部200を構成する個々のステーションは、それぞれ所定の作業を独立して行うことができるが、これらのステーションで共通して利用される画像ファイルおよびレイアウトファイルは、いずれもファイルサーバー300に格納される。管理サーバー400内には、ファイルサーバー300内に格納されている個々のファイルについての管理情報が格納されている。すなわち、管理サーバー400は、特定のファイルがファイルサーバー300内の何処に存在するかを示すファイル所在情報を一元的に管理する。管理サーバー400は、このようにファイルサーバー300内のファイルを一元的に管理する機能を果たすとともに、後述するように、個々のファイルに対する作業の完了状態を示す完了状態情報を更新する機能を果たす。すなわち、作業実行部200内のステーションによって何らか

の作業が完了すると、作業後の画像ファイルあるいはレイアウトファイルが、管理サーバー400の管理の下で、ファイルサーバー300の所定の場所に格納されるとともに、管理サーバー400によって当該ファイルに関する完了状態情報が更新されることになる。管理サーバー400内に格納されている管理情報は、ネットワーク500を介して各ステーションに提供されるので、各ステーションのオペレータは、必要に応じて、この管理情報をディスプレイ上で確認することができる。

#### 【0027】 § 2. 具体的な作業例

以上、図1に示す集版システムの基本構成を説明したが、続いて、この集版システムを構成する各ステーションにおける具体的な作業を説明する。新たな品目の受注があった場合、まず、品目設定ステーション110において、品目設定作業が行われる。ここでは、特許庁から「週刊特許新報」なる雑誌の印刷を受注した場合の例について説明しよう。図2は、品目設定ステーション110において設定される内容の一例を示す図である。図の左欄には、得意先名として「特許庁」、品目名として「週刊特許新報」、受注番号として「1234567」、担当者として「田中A郎」なる情報が設定された例が示されている。

【0028】一方、右欄には、画像編集ソフトウェアとして「アプリケーションX」、ドキュメント編集ソフトウェアとして「アプリケーションY」、画像ファイル形式として「EPSF」、画像解像度として「400dpi」なる情報が設定された例が示されている。画像編集ソフトウェアは、画像編集ステーション230において用いられるソフトウェアを示し、この例では「アプリケーションX」なるソフトウェアによって、画像編集ステーション230における作業を行う旨の指定がなされていることになる。また、ドキュメント編集ソフトウェアは、ドキュメント編集ステーション240において用いられるソフトウェアを示し、この例では「アプリケーションY」なるソフトウェアによって、ドキュメント編集ステーション240における作業を行う旨の指定がなされていることになる。また、この品目で用いられる画像のファイル形式は、「EPSF」に統一する旨が示され、画像解像度は「400dpi」に統一する旨が示されている。

【0029】一般に、同一品目についての集版作業では、用いるアプリケーションソフトウェアや、画像ファイル形式、画像解像度などを統一しておくのが好ましい。そこで、この実施形態では、図2に示す例のように、品目設定ステーション110における品目設定作業において、受注した品目について、統一した情報を設定するようにしている。このような設定情報は、管理サーバー400内に各品目ごとの品目情報として格納されることになる。

【0030】既に述べたように、1品目についての原稿

は、数頁単位で入稿が行われ、この数頁分の原稿についての集版作業を1つのジョブとして取り扱うことにより、個々の作業をジョブ単位で行うのが一般的である。そこで、ここでは、「週刊特許新報」なる品目について、1～5頁までの原稿が入稿した場合の入出校設定ステーション120における作業を説明する。図3は、この入出校設定ステーション120のディスプレイ上の表示画面の一例を示す図である。オペレータが、この品目についての受注番号「1234567」を入力すると、既に品目設定段階で入力された得意先名や品目名などの情報が画面上に表示され、新たに付されたジョブコードも表示される。ジョブコードは、今回入稿された1～5頁までの原稿を1単位とした仕事に与えられる識別番号であり、図示の例では、ジョブコード「341」が付された状態が示されている。

【0031】この例の画面上には、入稿頁の入力欄と出校指示の入力欄とが設けられている。入稿頁の入力欄には、今回の入稿頁が、1～5頁の全5頁である旨の入が行われ、ジョブコード「341」に相当する頁が1～5頁である旨の設定が行われる。具体的には、「連続頁」なる文字が記されたインジケータ欄121の右側に表示された第1の入力欄122に開始頁を示す数値

「1」を入力し、第2の入力欄123に終了頁を示す数値「5」を入力すればよい。一方、出校指示の入力欄には、今回の入稿頁に対して必要な出校指示の情報が入力される。ここに示す例では、カンパ出校（画像の部分をカラープリンタなどで試し刷りした出力形態）、フィルム出校（フィルム原版上への出力形態）、校正刷出校（フィルム原版を用いて、印刷機で実際に試し刷りをした出力形態）、データ出校（デジタルデータの形式での出力形態）の4通りの出校形態を用意しており、それぞれの形態での枚数を数値で入力するようにしている。図示の例では、ジョブコード「341」に相当する1～5頁についての出校は、カンパ出校およびフィルム出校がそれぞれ1枚ずつ行われることになる。

【0032】図4は、これまで述べた品目設定および入出校設定によって設定される品目およびジョブコードの具体的な構成例を示す図である。この例では、「週刊特許新報」および「月刊商標」なる2つの品目設定がなされており、前者については、図示の各頁範囲ごとに、ジョブコード「341, 342, 343, …」が付されており、後者については、図示の各頁範囲ごとに、ジョブコード「441, 442, …」が付されている。このように、品目設定ステーション110および入出校設定ステーション120における設定により、品目—ジョブという階層構造が定義されることになる。

【0033】続いて、作業指示設定ステーション130のオペレータにより、個々のジョブに所属する各画像ファイルに対して、それぞれ特定の編集作業を示す作業指示が設定される。まず、オペレータは、図4に示すよう



なジョブの一覧表示を画面上に表示させ、特定のジョブを選択する指示を入力する。あるいは、ジョブの検索機能を用意しておけば、選択すべき特定のジョブを検索することも可能である。ここでは、ジョブコード「341」で示されるジョブが選択されたものとして以下の説明を行う。特定のジョブを指定すると、作業指示設定ステーション130のディスプレイ上には、作業指示設定画面が表示されるので、オペレータは、ここで当該ジョブで取り扱われる画像の数を入力する。図5は、この作業指示設定画面の一例を示す図である。書誌表示部131には、選択された品目およびジョブに関する書誌的情報が表示されており、ジョブコード表示部132には、現在、作業指示を設定中のジョブのジョブコードが表示されている。

【0034】オペレータが、画像数入力欄133に、このジョブで取り扱われる画像の数（図示の例では4）を入力すると、作業指示テーブル135に、4行分のファイル名表示がなされる。この作業指示テーブル135は、1行が1画像に対応しており、各画像に対して行うべき作業指示を設定するために用いられる。実際には、1つのジョブにおいて取り扱うべき画像数はかなり多くなることが予想されるため、作業指示テーブル135には、スクロール機能などを設けておくのが好ましい。オペレータは、この作業指示テーブル135を用いて、当該ジョブについての作業指示を入力した後、制御ボタン134の「OK」をクリックすることにより、当該ジョブについての作業指示設定を行うことができる。なお、制御ボタン134の「キャンセル」をクリックすると、作業指示の設定作業は中止される。

【0035】この実施形態では、作業指示テーブル135において、1つの画像に対して2通りのファイル名を自動的に付与するようにしている。すなわち、入力時ファイル名と作業時ファイル名である。この例では、入力時ファイル名には英文字Sを冠し、作業時ファイル名には英文字Pを冠して、両者を容易に区別できるようにしている。入力時ファイル名は、後にスキャナ入力する際に用いる一時的なファイル名であり、作業時ファイル名は、種々の編集作業を行う際に用いられる正式なファイル名である。この例では、いずれのファイル名も、作業指示設定ステーション130によって自動的に付与するようにしているが、必要に応じて、顧客によって指示された任意のファイル名などに改名できるような機能を設けておくのが好ましい。ただ、任意のファイル名を付与できるようにした場合、過去に付与したファイル名と重複するかどうかのチェックを行うようにし、重複するファイル名があった場合には、オペレータにその旨を警告するようにしておくのが望ましい。

【0036】図示の例では、4つの画像に対して、S001～S004なる入力時ファイル名とP001～P004なる作業時ファイル名とが自動的に付与されてい

る。オペレータは、顧客から入稿した写真やフィルムに、付与された入力時ファイル名を鉛筆などで書き込んでおく。なお、図示の例では、入力時ファイル名も作業時ファイル名も同じ4文字からなるファイル名であるが、実用上は、前者を後者に比べて短くするのが好ましい。すなわち、作業時ファイル名は、少なくとも受注した品目についての校正作業が完了するまでは、各ステーションで共通して利用されるファイル名であるので、重複を避けるために、ある程度の長いファイル名が必要になる。これに対し、作業時ファイル名は、スキャナ入力時に一時的に利用されるファイル名であるため、ある一定期間後には利用されなくなるので、比較的短いファイル名でも十分である。したがって、入稿した写真やフィルムに鉛筆などで書き込むことを考慮すると、入力時ファイル名としては、できるだけ短いファイル名を付与するのが好ましい。

【0037】続いて、作業指示テーブル135の設定作業の詳細を説明する。作業指示テーブル135の各行には、入力時ファイル名および作業時ファイル名とともに、「切抜」、「色修正」、「合成」の欄が設けられている。これらの欄は、当該画像に対して、それぞれ切抜処理、色修正処理、合成処理を行うべき指示を示す欄である。これらの欄に「-」が記されていれば指示なし、「O」が記されていれば指示ありを示す。指示なし／ありを反転させるには、対象となる行を選択した後、指示ボタン136をクリックすればよい。たとえば、入力時ファイル名S001なる画像に対して、切抜処理を指示するのであれば、マウスなどで作業指示テーブル135の1行目をクリックして、当該画像ファイルの行を選択し（選択された行は反転表示される）、続いて、指示ボタン136の「切抜」をクリックすればよい。同様に、入力時ファイル名S002なる画像に対して、切抜処理および色修正処理を指示するのであれば、作業指示テーブル135の2行目をクリックして、当該画像ファイルの行を選択し、続いて、指示ボタン136の「切抜」および「色修正」をクリックすればよい。

【0038】図6は、上述した作業指示を行った場合の作業指示設定ステーション130の表示画面を示す図である。作業指示テーブル135において、入力時ファイル名S001の行では、「切抜」欄が「O」表示に変化しており、入力時ファイル名S002の行では、「切抜」欄および「色修正」欄が「O」表示になっている。このように、作業指示テーブル135を用いた各作業指示の設定方法は、非常に操作性が良好であり、しかも視認性にも優れている。この作業指示設定ステーション130で設定された作業指示情報は、管理サーバー400に格納され、要求に応じて全ステーションの表示画面に表示させることができる。したがって、各ステーションのオペレータは、必要に応じて、特定のジョブについての作業指示テーブル135をディスプレイ画面上で確認



することができ、どの画像ファイルに対してどのような作業を行えばよいのかを一目で認識することができる。

【0039】なお、本実施形態では、合成処理を指定された画像ファイルに対しては、若干異なる表示態様を採っている。これは、切抜処理および色修正処理が、1つの画像ファイルに対して単独で実行される作業であるのに対し、合成処理は、複数の画像ファイルを1つの画像ファイルに融合させる処理であるからである。たとえば、入力時ファイル名S003、S004に対して合成処理を行う場合を考えよう。この場合、スキャナ入力時には、2つの画像ファイルが存在するが、合成作業後には1つのファイルに融合され、実際の印刷には、この融合された画像ファイルだけが用いられることになる。したがって、作業指示テーブル135上では、同一行に統合させて表示させた方が、作業者が直観的に作業内容を認識しやすくなる。

【0040】そこで、合成処理が指定された画像ファイルに対しては、作業指示テーブル135上で、次のように表示させるようにしている。まず、オペレータは、入力時ファイル名S003の行およびS004の行をクリックして、2つの画像ファイルを選択した状態にして、指示ボタン136の「合成」をクリックする。これにより、作業指示設定ステーション130は、作業指示テーブル135の表示を図7に示すように変更する処理を行う。すなわち、図6に示す作業指示テーブル135の第3行目および第4行目が統合され、図7では1つの行で示されている。このとき、入力時ファイル名であるS003およびS004は、図示のとおり、「S003、S004」と同一欄に併記される。作業時ファイル名については、「P003」のみが存続し、「P004」は削除されている。この表示は、スキャナ入力時に「S003」なるファイル名で入力された画像と、「S004」なるファイル名で入力された画像とについて合成処理を施し、合成後の画像については、「P003」なるファイル名を付与することを意味している。オペレータは、「合成」欄の「○」表示だけでなく、入力時ファイル名の複数ファイル名表示によって、当該画像ファイルに対して合成処理が実行されるべきであることを直観的に認識することができる。

【0041】続いて、画像入力ステーション210および画像登録ステーション220における作業について説明する。上述したように、顧客から入稿した写真やフィルムには、それぞれ入力時ファイル名が記載されている。そこで、画像入力ステーション210のオペレータは、この写真やフィルム上の画像を、入力スキャナ装置を用いてデジタルデータとして入力し、それぞれに入力時ファイル名を付与し、画像ファイルとしてMOディスクなどの媒体に記録する。一方、画像登録ステーション220のオペレータは、このMOディスクなどの媒体に記録されている画像ファイルを読み出し、ファイルサーバ

ー300に対して正式な登録を行う。

【0042】このとき、図7に示すような作業指示テーブル135を確認した上で、切抜処理や色修正処理のように、1つの画像ファイルに対して単独で実行される作業が指定されている画像ファイルについては、作業時ファイル名によって登録するようにし、合成処理が指定されている画像ファイルについては、入力時ファイル名によって登録するようにする。図7に示す具体例の場合、入力時ファイル名「S001」なる画像ファイルおよび「S002」なる画像ファイルは、それぞれ作業時ファイル名「P001」および「P002」としてファイルサーバ300に登録されることになるが、入力時ファイル名「S003」および「S004」なる画像ファイルは、そのままのファイル名「S003」および「S004」としてファイルサーバ300に登録されることになる。

【0043】画像編集ステーション230では、次のような作業が行われる。まず、オペレータは、図4に示すような一覧表を表示させるか、ジョブの検索機能を利用して、作業対象となる特定のジョブを検索する。続いて、この特定のジョブについて、図8(a)に示すような作業指示テーブル135を表示させ、作業対象となる個々の画像ファイルと、当該画像ファイルに対して行うべき作業内容とを確認する。そして、たとえば、この作業指示テーブル135のうちの第1行目をクリックすれば、切抜指示が設定されている画像ファイル「P001」に対する画像編集作業を行うことができる。この場合、管理サーバ400内のファイル所在情報によって、画像ファイル「P001」の所在が認識され、ファイルサーバ300から画像ファイル「P001」が画像編集ステーション230へと転送される。また、画像編集ステーション230は、管理サーバ400内のアプリケーション指定情報に基づいて、ジョブ341の画像編集処理に用いるソフトウェアが「アプリケーションX」であることが認識できるので、インストールされているアプリケーションXを自動的に起動し、このアプリケーションXによって、画像ファイル「P001」を開く処理を実行する。

【0044】このように、本発明に係るシステムでは、管理サーバ400によって、個々の画像ファイルの所在や、作業に用いるアプリケーションソフトウェアが管理されているため、画像編集ステーション230のオペレータは、ファイルの所在やアプリケーションソフトウェアを意識せずに作業に入ることができる。しかも、これから行うべき作業内容は、図8(a)に示すような作業指示テーブル135によって確認できるため、種々の品目の種々のジョブに所属する画像ファイルについて、種々の加工作業を連続して行ったとしても、指示と異なるアプリケーションを用いて作業を行ってしまったり、指示とは異なる作業を行ってしまったりするミスは抑制さ

れる。

【0045】また、管理サーバー400は、図8(a)に示すような作業指示情報を格納するとともに、この作業指示に基く編集作業の完了状態を示す完了状態情報を格納する機能を有している。すなわち、画像編集ステーション230において所定の作業が完了すると、オペレータは、作業後の画像ファイルを保存する旨の指示を与える。管理サーバー400は、この画像ファイルの保存処理を監視しながら、各画像ファイルについての完了状態情報を更新する処理を行う。この実施形態では、こうして更新された完了状態情報を、作業指示テーブルを利用して表示するようにしている。たとえば、画像編集ステーション230によって、画像ファイル「P001」に対する切抜処理が完了し、画像ファイル「P002」に対する色修正処理が完了したとすると、管理サーバー400は、これらの画像ファイルについての完了状態情報を更新し、その結果を、図8(b)に示すような形態で、作業指示テーブル135上に表示する。すなわち、特定の画像ファイルについての特定の作業欄に「黒丸」を表示することにより、当該作業が完了していることを示している。このような表示方法を採れば、個々の画像ファイルについて、「白丸」の作業は未完了、「黒丸」の作業は完了、というように一目で認識することが可能になる。この例に示すジョブについて必要な画像編集作業がすべて完了すると、作業指示テーブル135は、図8(c)に示すような表示になる。なお、実際に画像編集ステーション230で行われた作業が何であるかを認識する手法については後述する。

【0046】本システムにおける管理サーバー400は、更に、画像編集ステーション230において、所定の画像ファイルに対する画像編集作業が完了した際に、当該画像ファイルについて予め設定されていた作業指示を確認し、本来の作業指示とは異なる編集作業が行われていた場合には、画像編集ステーション230に対してエラーを示す情報を提供する機能を有している。たとえば、切抜処理が指定されている画像ファイルに対して、オペレータが色修正処理を行ってしまったような場合、オペレータが編集作業後の画像ファイルを保存すべき指示を与えた時点で、エラー提示がなされることになる。このように、実際に画像編集ステーション230で行われた作業内容を認識するには、作業後のファイルを作業前のファイルと比較し、両者の相違内容に基いて、実際に行われた作業内容を類推するようなアルゴリズムを設けておけばよい。

【0047】たとえば、一般的なアプリケーションソフトウェアにおける切抜処理は、もとの画像データに、切抜きパスを示す輪郭線データを付加する処理として行われる。別言すれば、作業後の画像ファイル内に、もとの画像ファイルには含まれていなかった新たな輪郭線データが含まれていたとすれば、切抜処理が行われたと類推

することができる。これに対して、一般的なアプリケーションソフトウェアにおける色修正処理は、個々の画素の画素値を修正する処理であるため、通常、新たなデータの付加は行われない。そこで、本実施形態では、ファイルの最終修正日時を各ファイルの属性としてファイルに添付して格納するようにし、同一ファイル名をもちつつ、最終修正日時の異なるファイルを保存する旨の指示が画像編集ステーション230から与えられた場合には、一応、色修正処理が行われたものと類推するようにしている。

【0048】このような類推の結果、本来の指示とは異なる作業が行われたと判断される場合には、当該作業後のファイルをファイルサーバー300に格納する前に、オペレータに対して警告を行うようにしている。したがって、画像編集ステーション230のオペレータが誤った画像編集作業を行った場合でも、この誤った作業後のファイルが正式にファイルサーバー300に格納される直前に警告がなされるので、誤ったファイル登録を未然に防ぐことが可能になる。

【0049】ドキュメント編集ステーション240のオペレータは、編集作業が完了した画像ファイルを利用して、ドキュメント上での割付処理を行うことになる。まず、オペレータは、図4に示すような一覧表を表示させるか、ジョブの検索機能を利用して、作業対象となる特定のジョブを選択する。ドキュメント編集ステーション240は、管理サーバー400内のアプリケーション指定情報に基いて、ジョブ341のドキュメント編集処理に用いるソフトウェアが「アプリケーションY」であることが認識できるので、インストールされているアプリケーションYを自動的に起動し、このアプリケーションYによって、ジョブ341に所属する画像ファイルの割付処理や、必要なテキスト入力処理を実行する。このような編集作業により作成されたレイアウトファイルは、ファイルサーバー300に格納されることになる。

【0050】最後に、出力ステーション250のオペレータは、図4に示すような一覧表を表示させるか、ジョブの検索機能を利用して、作業対象となる特定のジョブを選択し、このジョブに関する画像や頁を出力して出校を行う。たとえば、図3に示す入出校設定によれば、ジョブ341に関しては、カンパ出校1枚、フィルム出校1枚という設定がなされているので、出力ステーション250は、カラープリンタを用いて編集後の画像ファイルに基くカンパを1部出力するとともに、画像ファイルおよびレイアウトファイルの情報に基いて、出力スキャナ装置を用いて編集後のドキュメントのフィルム原版をCMYKの各版ごとに1部ずつ出力する処理を行う。

【0051】§3. 操作性を向上させるための工夫  
以上、本発明の基本的な実施形態を述べたが、ここでは、各ステーションにおける操作性を向上させるための付加的な工夫を述べる。

【0052】既に述べたように、通常、1品目の印刷物は複数の部分に分割され、各部分ごとの集版作業がそれぞれ独立したジョブとして取り扱われる。すなわち、各ジョブごとに作業が進行し、ファイルサーバー300および管理サーバー400内の情報はそれぞれジョブ単位に分類して格納される。また、出校も各ジョブ単位で行われ、顧客による校正が行われる。この校正の結果、必要に応じて再入稿が行われ、たとえば、個々の画像の色調修正や、画像の差し替えなどが指示される。

【0053】このような再入稿が行われた場合、この再入稿によって生じた新たな作業は、新たなジョブとして取り扱った方が都合がよい。ただし、再入稿によるジョブに関する設定内容の大半は、新規入稿時のジョブの設定内容をそのまま流用できることが多い。そこで、本実施形態に係るシステムでは、入出校設定ステーション120に、再入稿時の設定を簡略化するための工夫がなされている。すなわち、集版作業が完了した印刷物の特定のジョブについて校正指示を含む再入稿があった場合、入出校設定ステーション120では、もとのジョブとしてファイルサーバー300および管理サーバー400に格納されている情報のうちの必要な部分を複製し、この複製した情報を、校正作業を行うための新たなジョブに関する情報として格納する機能を有する。

【0054】たとえば、上述した「週刊特許新報」の第1～5頁についてのジョブ（ジョブコード341）についての集版作業が完了し、この5頁分についてのカンパ出校が行われ、顧客からの修正指示を含む再入稿があった場合を考える。この場合、図3に示す入出校設定画面において、もとのジョブについての設定画面を表示させた状態で、新規／再入稿選択ボタン124の「再入稿」をクリックすると、図9に示すように、新たなジョブコード「351」が付与され、この新たなジョブについての入出校設定画面に切り替わる。この時点で、ジョブコード341についての作業指示情報や完了状態情報が、そのままジョブコード351についての作業指示情報や完了状態情報としてコピーされることになる。したがって、オペレータは、ジョブコード351なる新たなジョブについては、必要最小限の追加や修正を行うだけで管理情報の設定を完了させることができる。

【0055】入出校設定ステーション120における入力操作の操作性を向上させるためのもうひとつの工夫は、入稿頁の入力欄に2通りの入力機能をもたせた点である。図3で述べた入力方法は、インジケータ欄121の右側に表示された第1の入力欄122に開始頁を示す数値を入力し、第2の入力欄123に終了頁を示す数値を入力することにより、第1の入力欄122に入力された数値から第2の入力欄123に入力された数値に至るまでの複数の数値を連続頁として認識する入力を行う方法である。このような入力方法は、連続頁の入稿があった場合には便利であるが、実際には、必ずしも連続頁に

よる入稿があるとは限らない。たとえば、1頁、3頁、5頁、7頁、9頁といった奇数頁の入稿があった場合、この方法では対応することができない。

【0056】そこで、この実施形態における入出校設定ステーション120には、別な入力機能を用意してある。すなわち、図3に示す表示状態において、オペレータがインジケータ欄121をクリックすると、このインジケータ欄121の表示が「連続頁」から「個別頁」に切り替わり、第1の入力欄122、「-」、第2の入力欄123なる表示が、1つの大きな入力欄125に切り替わる。図10は、このようにして、入稿頁の入力欄の表示形態を切り替えた様子を示す図である。オペレータが、大きな入力欄125に、所定のデリミタで区切られた複数の数値を入力すれば、この入力欄125にデリミタで区切られて入力された複数の数値が、それぞれ独立した頁と認識されることになる。図示の例は、デリミタとしてカンマを用い、1頁、3頁、5頁、7頁、9頁を入力した状態を示すものである。

【0057】図3に示すような連続頁に適した入力画面と、図10に示すような個別頁に適した入力画面とは、インジケータ欄121をクリックするたびに切り替わるので、オペレータは、いずれか一方の入力機能を選択して入力作業を行うことができる。2つの入力画面は選択的にいずれか一方のみが表示されるので、画面上のスペースを節約することができ、また、不要な入力画面を表示させないことにより、入力作業をより効率化させることができる。

【0058】以上、本発明を図示する実施形態に基いて説明したが、本発明はこの実施形態に限定されるものではなく、この他にも種々の形態で実施可能である。たとえば、上述の例では、各画像ファイルの加工処理に用いるアプリケーションソフトウェアの指定を、品目設定ステーション110において、品目単位で一括して設定するようにしているが、入出校設定ステーション120において個々のジョブごとに設定するようにしてもよいし、作業指示設定ステーション130において個々の画像ファイルごとに設定するようにしてもよい。また、完了状態情報の更新処理は、必ずしも管理サーバー400側で行う必要はなく、個々のステーション側で行うようにしてもかまわない。もちろん、各ステーションのディスプレイに表示させる内容も、上述の例に限定されるものではない。たとえば、図8に示す作業指示テーブルにおいて、ステーションによっては入力時ファイル名の欄を省略してもよいし、作業時ファイル名の欄に合成前の入力時ファイル名S003、S004などを表示させるようにしてもよい。

【0059】

【発明の効果】以上のとおり本発明に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムによれば、管理情報設定部において必要な管理情報を予め設定し、この管

理情報に基いて各作業を実行できるようにしたため、複数のステーションの統括的な運用が可能になる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係るコンピュータネットワークを利用した集版システムの構成を示すブロック図である。

【図2】図1に示す品目設定ステーション110において設定される内容の一例を示す図である。

【図3】図1に示す入出校設定ステーション120のディスプレイ上の表示画面の一例を示す図である。

【図4】品目設定および入出校設定によって設定される品目およびジョブコードの具体的な構成例を示す図である。

【図5】図1に示す作業指示設定ステーション130における作業指示設定画面の一例を示す図である。

【図6】図5に示す画面を用いて、実際に作業指示を行った状態の表示画面を示す図である。

【図7】図6に示す画面を用いて、更に画像合成の作業指示を行った状態の表示画面を示す図である。

【図8】各ステーションから読み出すことができる作業指示テーブルの一例を示す図である。

【図9】所定のジョブについての再入稿があった場合の入出校設定画面を示す図である。

【図10】図3に示す入出校設定画面における入稿頁の入力欄の表示形態を切り替えた様子を示す図である。

#### 【符号の説明】

- 100…管理情報設定部
- 110…品目設定ステーション
- 120…入出校設定ステーション
- 121…インジケータ欄
- 122…第1の入力欄
- 123…第2の入力欄
- 124…新規／再入稿選択ボタン
- 125…大きな入力欄
- 130…作業指示設定ステーション
- 131…書誌表示部
- 132…ジョブコード表示部
- 133…画像数入力欄
- 134…制御ボタン
- 135…作業指示テーブル
- 136…指示ボタン
- 200…作業実行部
- 210…画像入力ステーション
- 220…画像登録ステーション
- 230…画像編集ステーション
- 240…ドキュメント編集ステーション
- 250…出力ステーション
- 300…ファイルサーバー
- 400…管理サーバー
- 500…ネットワーク

【図2】

#### 品目設定

得意先名	: 特許庁	画像編集ソフトウェア	: アプリケーションX
品目名	: 週間特許新報	ドキュメント編集ソフトウェア	: アプリケーションY
受注番号	: 1234567	画像ファイル形式	: EPSF
拒当者	: 田中A郎	画像解像度	: 400dpi

【図4】

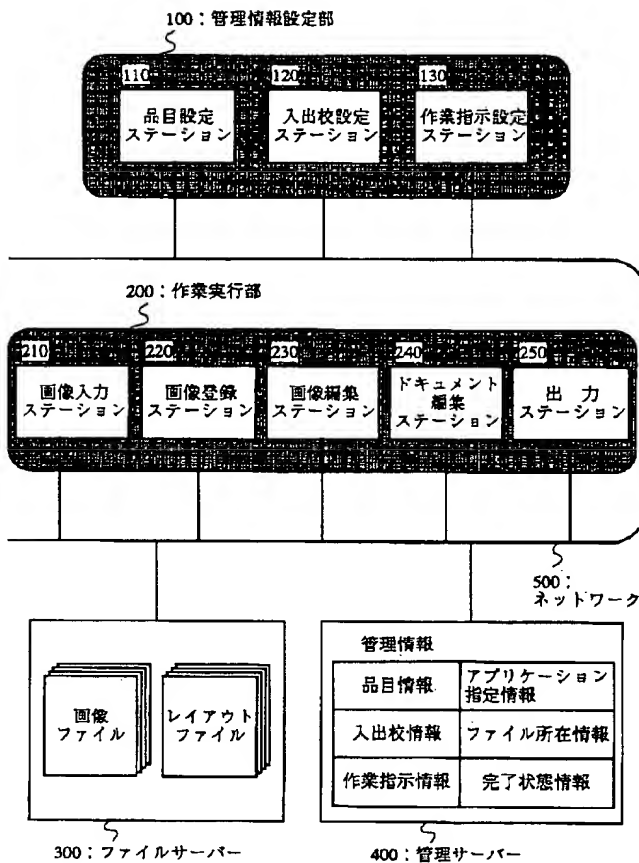
(品目)	(ジョブコード)
週間特許新報	1～5頁 : 341
	6～10頁 : 342
	11～20頁 : 343
月刊商標	1～4頁 : 441
	5～8頁 : 442

【図3】

#### 入出校設定

入出校設定	
得意先名 : 特許庁	ジョブコード : 341
品目名 : 週間特許新報	<input checked="" type="radio"/> 新規入稿
受注番号 : 1234567	<input type="radio"/> 再入稿
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	
入稿頁 : 121 <input type="text" value="連続頁"/> 122 <input type="text" value="1"/> 123 <input type="text" value="5"/> 全5頁	
出校指示 : カンプ出校 <input type="text" value="1"/> 枚, 校正刷出校 <input type="text" value="0"/> 枚 フィルム出校 <input type="text" value="1"/> 枚, データ出校 <input type="text" value="0"/> 枚	

【図1】



【図5】

作業指示設定

品目名 : 週間特許新報      ジョブコード : 3 4 1

受注番号 : 1 2 3 4 5 6 7      画像数 : 4

頁 数 : 1 - 5 頁

OK      キャンセル

入力時ファイル名	作業時ファイル名	切抜	色修正	合成
S001	P001	—	—	—
S002	P002	—	—	—
S003	P003	—	—	—
S004	P004	—	—	—

切抜      色修正      合成

【図6】

作業指示設定

品目名 : 週間特許新報      ジョブコード : 3 4 1

受注番号 : 1 2 3 4 5 6 7      画像数 : 4

頁 数 : 1 - 5 頁

OK      キャンセル

入力時ファイル名	作業時ファイル名	切抜	色修正	合成
S001	P001	○	—	—
S002	P002	○	○	—
S003	P003	—	—	—
S004	P004	—	—	—

切抜      色修正      合成

【図7】

作業指示設定

品目名 : 週間特許新報      ジョブコード : 3 4 1

受注番号 : 1 2 3 4 5 6 7      画像数 : 4

頁 数 : 1 - 5 頁

OK      キャンセル

入力時ファイル名	作業時ファイル名	切抜	色修正	合成
S001	P001	○	—	—
S002	P002	○	○	—
S003, S004	P003	—	—	○

切抜      色修正      合成

【図9】

入出校設定

得意先名 : 特許庁      ジョブコード : 3 5 1

品目名 : 週間特許新報      ○ 新規入稿

受注番号 : 1 2 3 4 5 6 7      ● 再入稿

OK      キャンセル

入稿頁

121 連続頁 1 5 全5頁

出校指示: カンプ出校 1 枚, 校正刷出校 0 枚

フィルム出校 1 枚, データ出校 0 枚

【図8】

入力時ファイル名	作業時ファイル名	切抜	色修正	合成
S001	P001	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
S002	P002	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
S003, S004	P003	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(a)

入力時ファイル名	作業時ファイル名	切抜	色修正	合成
S001	P001	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
S002	P002	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
S003, S004	P003	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

(b)

入力時ファイル名	作業時ファイル名	切抜	色修正	合成
S001	P001	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
S002	P002	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
S003, S004	P003	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

(c)

【図10】

入出校設定

入出校設定

得意先名 : 特許庁      ジョブコード : 341

品目名 : 週間特許新報      ☒ 新規入稿      ☐ 再入稿     

受注番号 : 1 2 3 4 5 6 7

入稿頁

121 ~ 個別頁  全5頁

出枚指示: カンプ出枚  枚,      校正刷出枚  枚

フィルム出枚  枚,      データ出枚  枚

125

フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

H04N 1/21

識別記号

FI

G06F 15/20

596B

(72)発明者 尾関 一郎

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
大日本印刷株式会社内

(72)発明者 和泉 直樹

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
大日本印刷株式会社内

(72)発明者 安藤 真理

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
大日本印刷株式会社内

(72)発明者 竹内 功

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
大日本印刷株式会社内